

滋賀県における今後の環境学習のあり方について 検討まとめのイメージ

はじめに

目指す社会のイメージ

琵琶湖をはじめとする滋賀の環境と生態系が健全に保たれ、バランスのとれた経済発展を通じて、県民すべての生活の質の向上が図られている豊かで安全な社会。
(持続可能な滋賀社会ビジョンをベースに)



琵琶湖環境 の再生

琵琶湖流域および周辺で健全な生態系と安全・安心な水環境を確保し、遊・食・住等の人の暮らしと琵琶湖の関わりを再生すること

低炭素社会の 実現

地球温暖化などの環境変化への対応として、環境保全と経済発展を両立しながら、温室効果ガスを削減すること

目 標



(小委員会での検討の方向)

主体的に環境保全行動を行う人育ち・人育てによる
持続可能な社会づくり

環境学習のあり方 検討の意義

環境教育等促進法の施行、県内外の社会状況の変化を踏まえて、持続可能な社会づくりのための環境学習（ESD）という観点から、滋賀県における今後の環境学習のあり方について検討する必要がある。

環境学習のめざすもの

<目標>

主体的に環境保全行動を行う人育ち・人育てによる
持続可能な社会づくり



<目標達成に向けて特に重要な視点>

直接「体験・実践」する。

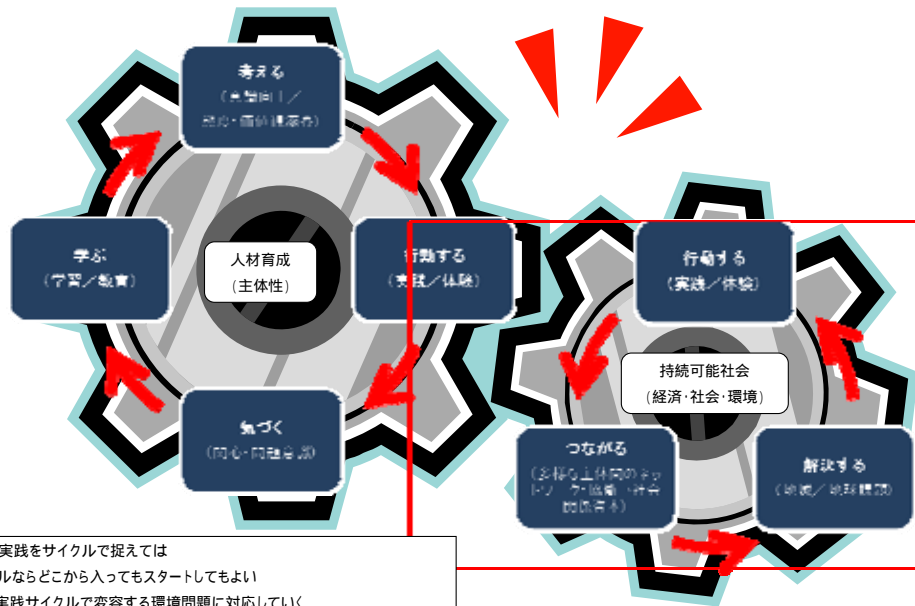
- ・環境の恵みを、体験を通して、全身で感じ、環境を大切に思う心を幼少期から育むことが重要である。また、地域の身近な課題に対する取り組みを体験することによって、学びに実感を伴わせることができ、地域への関心・愛着に裏打ちされた行動につなげることができる。
- ・本県には、琵琶湖をはじめ、多様な自然体験の場があり、かつ、びわ湖の日に環境美化活動を実践するなどの滋賀らしさがある。

琵琶湖を守ろうと立ち上がった県民運動の原点に立ち返り、持続可能な社会づくりのために解決すべき環境課題（特に、琵琶湖環境の再生、低炭素社会の実現）を自分ごととして捉え、普段の消費行動など身近なことから行動する人材が育つ、あるいは人材を育てることにより、持続可能な社会を実現すること

「つながり」を意識し、深める

- ・私たちが自然の生態系の中で生きていることを理解し、人と人との絆や、人と自然、人と社会とのつながりを深めていく必要がある。
- ・自然体験や環境保全活動の実践を通して、様々なつながりを理解し、深めることで、そのつながりが学びに、持続可能な社会づくりへとつながっていく。

持続可能な社会づくりのための環境学習のイメージ



・学習と実践をサイクルで捉えては
・サイクルならどこから入ってもスタートしてもよい
・学習・実践サイクルで変容する環境問題に対応していく
・それが“つながり”の創出と課題解決、その先の持続可能な社会へとつながる

「用語の整理」

持続可能な社会づくりのための環境学習（ESD）

ESD の枠組みの中で環境学習を捉え直した考え方で、学びに「実践」と「つながり」の視点を意識するもの。学びにおいては、住民一人ひとりがこれからの琵琶湖や持続可能な滋賀社会のために、どうしていくかを自ら学ぶ、あるいは相互に学びあう、教えあうというニュアンスをこの言葉に込めている。 小委員会での共通理解として

環境学習で何が大切か

[つながり]	[基本的な考え方]	[体験・実践の視点]
場の つながり	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる場で行われること 体系的に行われること 	<p>家庭、学校、地域、職場等のあらゆる場で学習、体験、実践すること</p> <p>暮らしの様々な場面で実践すること ライフスタイルの変革</p> <p>幼児から高齢に至るまで、ライフステージに応じた学習、体験、実践をつなげていくこと</p>
人と人の つながり	<ul style="list-style-type: none"> 人と関わりを持ち行われること 次世代を意識して行われること 	<p>学びや実践において、人と人（個人として）のつながりや信頼関係を大切にすること</p> <p>孫子の世代に豊かな琵琶湖、今の世代と次の世代のつながりを意識して行動すること</p>
課題の つながり	<ul style="list-style-type: none"> 総合的に行われること 地域に根ざして行われること 	<p>環境と社会・経済・文化とのつながりなど、様々な課題の間のつながりを意識し、総合的にどうやって課題を解決していくかを考え、行動すること</p> <p>地域に愛着をもち、地域の課題を解決する（地域をよくする）ことが、全県を、琵琶湖をよくすることにもつながることを意識して行動すること。</p>
主体間の つながり	<ul style="list-style-type: none"> 協働・連携が重視されて行われること 	<p>学習や実践では、NPO、学校、企業、メディア等の多様な主体がつながりあい、協力しあうこと</p> <p>環境人材を生かす場や機会を広げること</p>

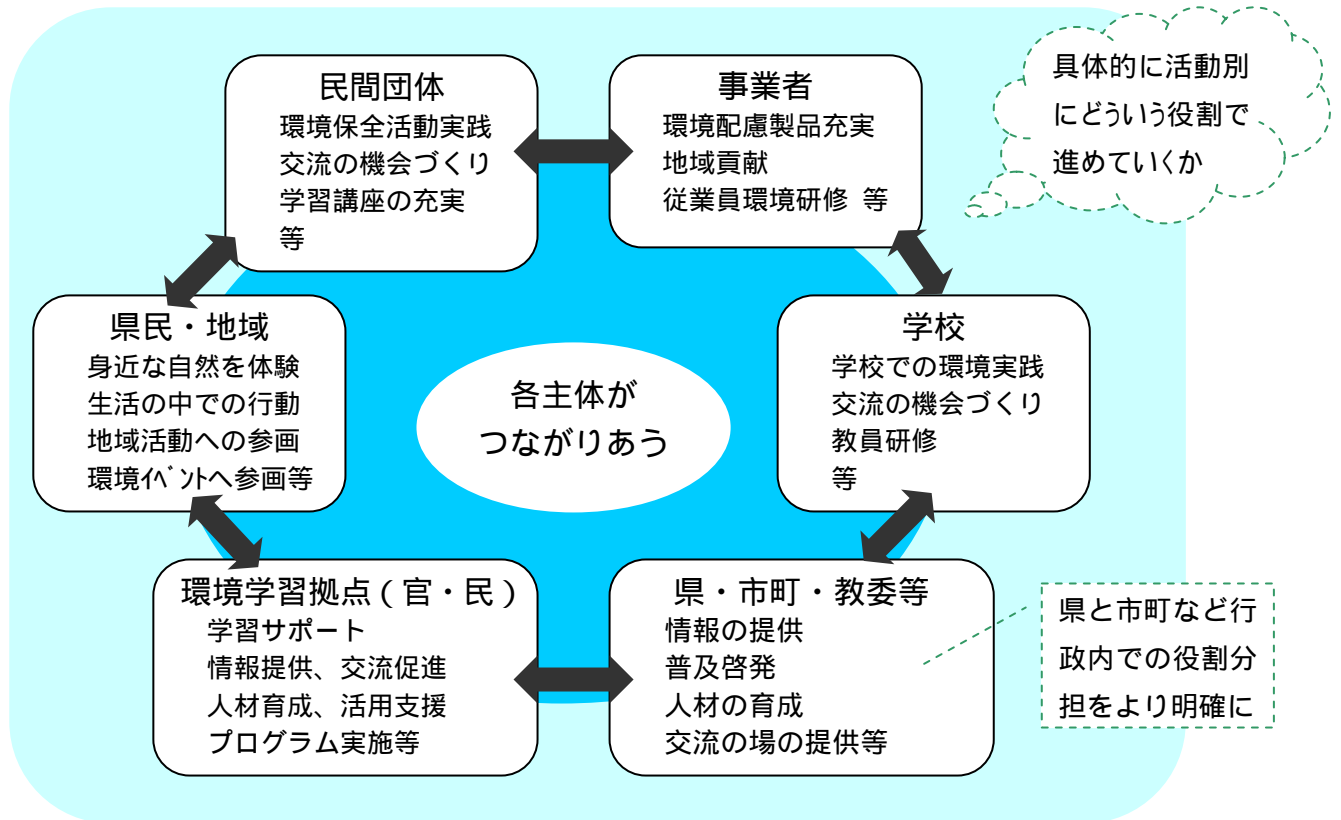
環境学習を推進するために

学びあい・教えあいの関係の中で



各主体の役割

環境学習を進める上で、今後さらに求められる役割等



環境学習の推進による成果

- ・ 持続可能な社会づくりのための環境学習の目標は、人材育成による持続可能な社会づくりであることから、その目標の達成度は、学習機会や指導者・サポーターの増加だけでなく、そういった取り組みにより、どれだけ人々が持続可能な社会づくりに向けて実践するようになったかで測るべきではないか。